

2007年(平成19年)11月9日 金曜日

主婦感覚生かしてリフォーム業営む

塚本 明美さん (59) =西京区

# 団塊の女性たち

## 「大人数だった高校時代に原点」



「真心込めた仕事」が信条の塚本さん(京都市西京区)

### 男社会に明るさで挑む

左官職人の夫の仕事場

当時の建築業界は「完

を訪ねるたび、人の住ま

全な男社会で周りに女は

いを造る建築に魅せられ

わたしだけ」という状況

ていった。三十四歳の時、

だった。そんな中、持ち

点は大人数で過ごした高

一大決心して自ら事業を

前の明るさと反骨精神で

校時代にある」。京都明

立ち上げた。「住まいの

同業の職人の技を見聞き

徳商業高(現・京都明德

便利屋さん」として雨漏

して知識と経験を積み、

高)入学時、学年は一組

りの修理などから始め

快適な住環境の提案から

六十人以上で全十八組も

た。

施工まで請け負うリフォ

あった。「黙っていたら

顔も覚えてもらえない。自然と前に出るようになった」と振り返る。

部活は「和文タイプ選手養成クラブ」で、文字を打つ速さを競う大会で京都一の座をかけてライバルとのぎを削った。

「ずっと負けていた相手に勝てた時の喜び。あの経験が何でもやればできると教えてくれた」。

最近、少しずつ腰や脚に痛みを感じるようになったが、「台所のキッチンの高さなど、お客さんとより親身になって相談できるようになった」と姿勢は常に前向きだ。

「今があるのは出会ったすべての人のおかげ。お客さんに良いアイデアを提案する感性が鈍らない限り、いつまでも仕事を続けたい」と、わき出る意欲は尽きない。

(高元昭典)